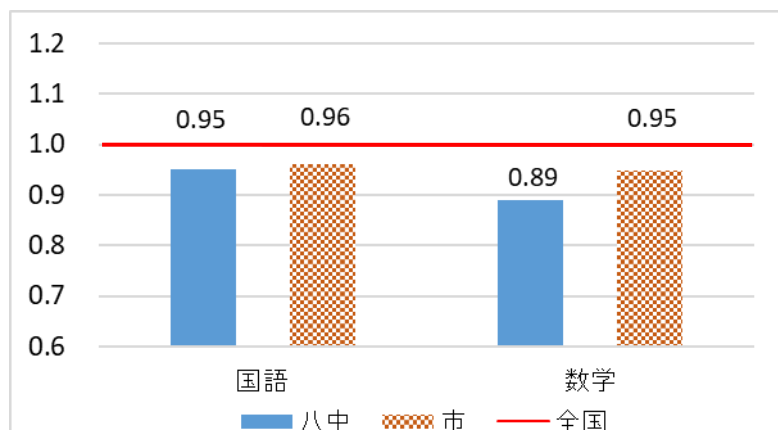


令和3年度 全国学力・学習状況調査について
第八中学校区 第八中学校 第3学年

○調査結果（全国平均を1とした場合の平均正答率の比）



○調査結果についての分析、今後の改善方策

【国語】

平均正答率の全国比は0.95であり、市とほぼ同等であった。全国を上回った観点とは、「書く能力」であり、課題は「言語についての知識・理解・技能」である。「話合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える」問いにおいて全国平均より6.3ポイント高い一方で、「文脈の中における語句の意味を理解する」という問いにおいては全国平均より7.8ポイント下回っていた。

【数学】

平均正答率の全国比は0.89であり、市を0.06下回っている。観点別に見ると、「数量や図形などについての知識・理解」は他の観点に比べ良好であったが、課題は「数学的な技能」であることがわかった。「与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる」という問いにおいて全国平均より0.4ポイント、「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」という問いは全国平均より1.1ポイント上回っていた。

【質問紙調査】

「学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決める」「学級活動での話し合いを生かして、自分が努力すべきことを決めている」の質問に対して肯定的な回答が多いことから、各学級において他者のことを思いやり、自分も成長できる生徒が多いことがわかる。

「自分で計画を立てて勉強をする」「授業時間以外の学習時間」に対しては、全国平均に比べ肯定的な回答が少ない。今後、生徒が予定を立てて学習に取り組む環境作りが課題である。

○学力向上の取組

【中学校区】

小中学校間での授業参観・討議会を行い、9年間を見据えた授業改善の取組を年3回行っている。学力部会では、校区全体での課題を見つけ改善している。

【学校】

P B I S（ポジティブ行動支援）による効果もあり、自己有用感を高めながら授業に取り組んでいる。また、ICT機器を授業中ほぼ毎日使用し、意見交流をするなど活発な活動が行われている。